



差別をなくす強調月間に入りました！

学校だよりでお伝えしていますように、伊賀市の小中学校では、「学力」・「人権」・「キャリア」を3つの柱として、学習に取り組んでいます。「人権」に関わって、伊賀市においても、11月11日から12月10日を「差別をなくす強調月間」と定めて、様々な人権に関わる取組がなされています。この期間に、城東中学校でも、人権に関わる取組を進めています。

- 11月13日(月)、「3年生人権講演会」
- 11月24日(金)、「PTA人権講演会・学級懇談会」
- 12月4日(月)、「1年生人権講演会」
- 12月5日(火)、「2年生人権講演会」



11月24日(金)の午後に、保護者・全校生徒・地域の皆様が参加し、「城東中学校区人権の集い」を行い、その後、各教室で学級懇談会を行いました。「城東中学校区人権の集い」では、第1部人権講演会で、「NPO法人LGBTの家族と友人をつなぐ会」東海理事の渡部京李さんから「本当の自分を生きる」という演題でお話を聞かせていただきました。渡部さんは、性に違和感があった自分を否定していたこと、まわりから認められたいという気持ちから「できる自分」を演じて生きてきたこと、教員時代の二人の人の出会いから、「本当の自分を生きる」ことができたこと、などをお話してくれました。そして「自分自身の中にも差別心がある、だからこそ、自分の言動や心の動きを常に振り返り、問い直すことが大切」「今現実にあるいろいろな人権課題は当事者個人の問題ではなく、私たち一人ひとりが取り組んでいく社会の問題である」「一人で抱え込まないで。あなたはあなたのままでいい、ありのままの自分を生きてほしい」と伝えてくれました。

第2部では、「城東のつどい」から活動報告がありました。参加している生徒から、日ごろの活動の様子や熊本復興支援で行っている城東バザーについても報告されました。「城東のつどいは、他学年の人とも交流できる場所」「なかもつなかりを作れる場。これからも参加していきたい」「差別をなくす行動の一つとしてたくさんの人に参加してもらいたい」と伝えられました。

【保護者の感想】

○渡部京李さんの講演は、生きづらい社会、ありとあらゆる人問題を見直すきっかけとなりました。粹にとられ、人と比べ、他人の目ばかりを気にして子育てをしていた自分を反省し、ありのままの姿を受け入れ、寄り添い、何でも話していける関係をつくっていかうと改めて思いました。中学生のこの時期は性的あり方について一番考える年頃であり、もしかすると自分をいつわっている子どもたちもいるかと思えます。恥じることなく、なんでも話せる社会を願います。

○城東のつどいが、子どもたちの居場所になっていたり、価値観をゆさぶってくれる場だったりするのだろうと思えました。行事の中で子どもたちが新たな気づきを得たり、経験できたりし、力をつけていけると思いうので、今後が楽しみだと思えました。

【生徒の感想】

○自分が持っている偏見に気づいてびっくりしました。自分が偏見を持っているということに気が付いたので、もっといろんな場で学びたいです。

○お話を聞いて、わたしも少し「差別される人が変わるべき」と思ってしまっていたと思えました。でもそれ

はおかしいことで、差別は周りが作っているということに気がきました。渡部さんが言っていた「自分の言動や心の動きを常に振り返り、問い直す」ということを自分でもできるようにしたいです。

3年生が人権講演会を開催しました！

11月13日(月)の3・4限に3年生が、反差別・人権研究所みえ常務理事兼事務局長の松村元樹さんから、「無関心でいられても、無関係ではいけない人権・部落問題～人権総合学習以外の日常こそ重要～」をテーマに話を聴かせていただきました。誰もが偏見等をもたされる社会にあって、無意識に誰かを差別してしまうこと、結果として差別を支えてしまうことが多々あることを、自分を振り返って考える機会となりました。県民意識調査の結果からも、社会に差別が存在していること、部落差別の実態があることを知り、差別はする側の問題であると再認識するとともに、自分たち一人ひとりが差別をなくす主体者として、自分を変えていくこと、行動していくことが必要であることを学ぶことができました。



【生徒の感想】

○自分たちは「特権があることに気づきにくい」ということが心に残っています。さまざまな特権が自分にはあるのに、それがあたりまえや普通とも思っている考え方が、意識しないうちに自分のなかにあると思いました。そして、そうした考え方は自分の何気ない発言や行動に出てくると感じました。だから自分の考え方や価値観を見直して生活していきたいと思いました。

○松村さんの話を聴いて、私はこれまで差別をなくしたいと思っていたけれど、ただそう思っているだけで何もできていなかったことに気づきました。人権について学習はしてきたけれど、何かに生かすことは難しく、何もできていなかった自分は、もうすでにどこかで誰かを傷つけてたのかもしれないと思いつ返し、怖くなりました。「無意識の日常的な差別」という言葉から、自分はこれまでに加害者も被害者も経験していたことに気づきました。日常生活のなかで相手からの言葉が少し自分に引っかかったり、偏見やマジョリティー側の意見をあたりまえだと思い込んでいる、こういう些細なことから差別は始まっているのだと感じました。

○「考える・学ぶ・知るだけでは差別はなくなる」と知り、それは普段の生活にもあてはまることだと思います。キャプテンをしていたときも自分が考えているだけではチームは何も変わらないけど、うまくいなくても言語化したり、自分が率先して動くことでチームの雰囲気はとてよりよいものになりました。差別に対しても、誰かがするのはなく自分が行動に移すということが必要不可欠で、それは難しいけど、だけど周りが支えてくれたりすることで差別を少しずつなくしていけると思いました。

○家族などの身近な人に人権学習で学んだことを伝えるなかで、最初は興味のなさそうだった家族も、だんだんと私の言葉を聞いてくれるようになって、人権学習を長い間ずっと学んできたのはこういうことなんだと気づきました。私はまだまだ人と話す勇気も自信もないけれど、もっと人と関わろうとしていけるようにします。私も自分らしくいられるようになりたいです。

「尺八とお箏の演奏会」を開催しました！

11月15日(水)の5限に3年生が伊賀市文化都市協会 2023年度学校アウトリーチ事業の「尺八とお箏の演奏会」を楽しみました。尺八奏者の川崎貴久さん、小林鈴純さん、箏奏者の麻植理恵子さんに演奏して頂き、授業で取り組んだ、六段の調べや巢鶴鈴慕、三重奏でキビタキの森を披露して頂きました。

